

社会福祉法人 山形県コロニー協会

平成 25 年度事業報告

(平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日)

総括

平成 25 年 4 月 1 日から、これまでの障害者自立支援法から、「地域社会における共生の実現に向けて新たな障害保健福祉施策を講ずるための関係法律の整備に関する法律（障害者総合支援法）」が施行された。また、本年 2 月には国連障害者の権利条約の日本における批准が完了した。批准までの間、関係国内法が整備され、国際障害者年を契機としたノーマライゼーション思想が、30 年以上の歳月をかけて障害者の権利を主体とした具体的な条約として明文化されることになった。

当法人では、平成 18 年に山形福祉工場を新事業体系に移行してから、積極的に新たな障害保健福祉施策の流れに沿った事業展開を行ってきた。現在、障害者相談支援事業、一般就労移行支援事業、障害者就労継続支援事業 A、B 型、障害者グループホーム、障害者福祉ホームの事業を運営し、100 名以上の障害のある人に日常的に福祉サービスを提供するに至っている。就労支援事業としては、県内で最大規模となった。

平成 25 年度は各事業の運営強化と福祉サービス提供の充実を図るために、本部機能の強化、目的別組織編制を行った。地域生活支援部として、相談支援事業（山形コロニー相談支援センター）と居宅部分（福祉ホーム、グループホーム）を統合した。就労移行支援事業（山形コロニー就労サポートセンター）を地域就労支援部として独立性を持たせ、本年 4 月から障害児放課後等デイサービスを新たな事業として追加した。また、山形福祉工場を営業部、A 型事業部に分け、コロニーセンターを B 型事業部とし責任体制の明確化を図った。B 型事業は本年 3 月より定員変更を行い、定員を 30 名から 40 名とした。

相談支援事業は、山形市の方針により障害福祉サービスの受給者全員を平成 26 年度まで計画相談支援の対象者とすることから、相談支援対象者が増加し対応に追われた。これにより、住まいの場の需要が増え、現在、障害者福祉ホーム・グループホームはほぼ定員一杯の状況である。就労移行支援事業は平成 19 年の事業開始から利用申込者数の問題を抱えていたが、行政、特別支援学校、保護者の事業に対する理解がようやく浸透し、年度末の利用申込み状況は定員を大幅に超過している。事業目的を特化し、職員の専門性向上に努め、平成 25 年度は 10 名を一般就労に結び付けた。全国的に就労移行支援事業が社会福祉法人において退潮傾向のなかでは一定の成果を上げることができた。しかしながら、新規利用者は就労の難しい精神障害者、特に発達障害の利用者の割合が非常に増えていることから、今後の就労支援の難しさを感じさせる状況となっている。

就労継続支援事業 A 型の山形福祉工場は、就労支援事業の印刷事業の市場環境が厳しいなかで、消費税税率アップの影響もあり前年度並みの実績を残すことが出来た。円安の影響もあり加工高は目標値に届かなかった。利用者数は年度末で、現場実習者を含め 42 名となっており、印刷事業が厳しいなかで定員を上回っている。

就労継続支援事業B型の山形県コロニーセンターは、利用希望者が増加している。平成26年3月に定員変更を行ったが、日常的に継続利用の難しい利用者の利用が増加し平均利用率が減少している。また、工賃向上計画のもと就労支援事業の取組みを充実させた。結果として前年度より月平均工賃を上回ることができた。しかし、現状では様々な障害特性への対応に追われ、工賃向上計画の実施を目的化することの矛盾も顕在化した。

平成25年度は、福祉サービス提供の充実の側面を職員の専門性の視点から考えた場合に、就労支援事業の専門性と福祉的支援の専門性の関連について整理のつかないまま日常の業務を行っている実態の問題が顕在化した。そのため、福祉専門職資格の資格取得を促進するための規程整備等を行った。

昨年から、社会福祉法人の在り方が、介護系法人の内部留保問題に端を発して、民間事業とのイコールフットィングの観点から問題指摘されることとなった。当法人においては、町内との連携を含めボランティア活動等積極的に活動を行ってきた。ただ、社会貢献活動面を明瞭化することの必要性も生じてきている。

平成25年度予定の耐震診断は、耐震診断が順番待ちの状態で次年度に持ち越しとなった。

1. 理事(監事)会・評議員会

理事(監事)会は、5月・12月・3月の計3回開催した。評議員会は、5月・12月・3月の計3回開催した(詳細については、34頁の「法人本部の主な事業」に記載)。

2. 監事会(監事監査)

監事2名による平成25年度の事業等に係る監事監査を、会計事務所会計担当者立会いのもとで5月21日に実施した。監査結果は、5月30日開催の第38回評議員会と第209回理事会で監事から報告された。

3. 第三者委員による直接苦情受付(施設訪問)の実施

以下の内容で、施設ごとに3回実施した。内2回コロニーセンター利用者から1件ずつ申出があった。2件とも同じ利用者からのもので、生き別れになった親に会いたいという内容であり、相談という形で対応した。

第1回 平成25年5月1日

コロニーセンター担当：高橋マサ委員 受付0件

福祉工場担当：谷津良一委員 受付0件

第2回 平成25年11月14日

コロニーセンター担当：谷津良一委員 受付1件

福祉工場担当：高橋マサ委員 受付0件

第3回 平成26年2月19日

コロニーセンター担当：高橋マサ委員 受付1件

福祉工場担当：谷津良一委員 受付0件

4. 第三者委員との苦情解決合同会議及び虐待防止委員会の開催

以下の内容で、4回とも福祉工場相談室で実施した。苦情解決合同会議の後、虐待防止委員会を開催した。

2月には協会の「虐待防止・虐待対応時マニュアル（案）」を委員会に提示し、意見を徴収した上で今後の対応を図ることにした。

第1回 平成25年5月1日 欠席=無し

出席者：須貝寿一 阿部和信 鈴木裕子 山口雄二 佐藤暁子 渡辺博樹
佐藤勝也 堀 佳子 谷津良一 高橋マサ

内 容：① 第三者委員への直接連絡報告 0件

② 第三者委員施設訪問時受付報告

全施設の受付 0件

③ 平成25年2月以降の受付及び処理報告

福祉工場受付 1件

福祉ホーム受付 2件

コロニーセンター・グループホーム・就労サポート受付0件

対 応：上記③の福祉工場受付1件については、ハイツ入居者の生活態度に関するもの。福祉ホーム2件については、障害者の職務と報酬に関するもの及びハイツ入居者の町内会活動参加に関するもの。生活態度や住民としての地域活動参加については充分説明すること、また職務については利用者としての位置付けを越えた対応はできないこと、報酬については職域提供と職業能力の問題があることを回答した。

第2回 平成25年8月21日 欠席=無し

出席者：須貝寿一 阿部和信 山口雄二 鈴木裕子 佐藤暁子 渡辺博樹
佐藤勝也 堀 佳子 谷津良一 高橋マサ

内 容：① 第三者委員への直接連絡報告 0件

② 平成25年5月以降の受付及び処理報告

福祉ホーム受付 5件

コロニーセンター・グループホーム・福祉工場・

就労サポート 受付0件

対 応：上記②の福祉ホーム受付5件については、入居者同士の争い・管理人に対する要望・表示板へのいたずら等であった。これらについては7月25日に入居者全員との話し合いの場を設けた他、7月31日には職員による臨時会議を開催し、対応を検討した。

第3回 平成25年11月14日 欠席=佐藤暁子

出席者：須貝寿一 阿部和信 山口雄二 鈴木裕子 渡辺博樹
佐藤勝也 堀 佳子 谷津良一 高橋マサ

内 容：① 第三者委員への直接連絡報告 0件
② 平成25年8月以降の受付及び処理報告

福祉工場受付 1件

コロニーセンター・グループホーム・福祉ホーム・

就労サポート受付 0件

対 応：上記②の福祉工場受付1件については、トイレの悪臭に対するものと若年の職員の対応に関するもの。悪臭については消臭の強化や排水溝の防臭で対応した。対応に関するものについては、具体的な記述がなく詳細は不明であるが、担当部署において注意を喚起した。

第4回 平成26年2月19日 欠席=無し

出席者：須貝寿一 阿部和信 鈴木裕子 山口雄二 佐藤暁子 渡辺博樹
佐藤勝也 堀 佳子 谷津良一 高橋マサ

内 容：① 第三者委員への直接連絡報告 0件
② 第三者委員施設訪問時受付報告

コロニーセンター受付 1件

福祉工場受付 0件

③ 平成25年11月以降の受付及び処理報告

全施設にて受付 0件

対 応：上記②のコロニーセンター受付1件については、利用者の家族に対する思いに関するもの。相談支援と連携し、本人の気持ちを十分に汲み取ることを確認した。

5. 労働安全対策

毎月1回(15日)に、労働安全衛生委員(12名)による安全衛生巡回と労働安全衛生委員会を開催した。委員会では年間スローガン「労災ゼロ ～見直そう過去にあった事故・災害～」を制定し、安全衛生に努めた。安全衛生委員会では、巡回での指摘項目を報告し、指摘事項の改善に努めた。

毎年、7月1日から7日まで「全国産業安全週間」、10月1日から7日まで「全国労働安全週間」であり、この期間協会全体で安全衛生に取り組んだ。また、10月1日から12月31日まで山形労働局等が主催する「山形ゼロ災3か月運動・2013」に、2施設で参加協力した。平成25年度の労働災害発生は、2件(4月：作業中、7月：休憩中)であった。

6. 防災対策

東日本大震災を教訓とし、昨年度から春季を火災避難訓練、秋季を大規模地震避難訓練と位置づけ訓練を実施した。災害対策用備蓄の食糧品・医薬品・日用品の一部を、随時更新した。また、桜田南自主防災会の会合に、定期的に職員が参加した。

7. 全体収支総括

福祉事業活動収支（対前年比）	収入総額	210,231千円	（昨年対比 102.98%）
	支出総額	203,689千円	（昨年対比 108.76%）
就労支援事業収支（対前年比）	収入総額	256,251千円	（昨年対比 100.17%）
	支出総額	255,953千円	（昨年対比 100.53%）

8. 情報公開

① 会報の発行

協会の会報である「コロニーやまがた」は10月と3月の2回発行した。後援会会員や福祉関係・行政機関に送付したほか、窓口にも常備し見学者や相談者に配布した。

② ホームページ

現在リニューアル中である。

9. 東日本大震災被災地支援

平成25年度は陸前高田市を中心に、JDF（日本障害フォーラム）を通じて職員3名が、延べ日数21日に渡り仮設住宅の障害者の移動支援を行なった。また、昨年に引き続き募金活動を行なった。

10. 地域との交流・協力体制

「地域交流会第9回コロニーまつり」を9月28日に開催した。福祉工場とコロニーセンターの合同開催となってから4回目となり、職員・利用者一体となってすっかり地域の恒例行事となった。

コロニーハイツ食堂や就労サポートセンター1階・2階フロアの地域住民の利用については、桜田南町内会や桜田南町内会自主防災会の会合、蔵王地区地域健康教室が定期的に開かれている。

11. 有資格者の現員

社会福祉士7名（4月に有資格者1名採用）、精神保健福祉士1名、看護師1名、栄養士1名である。また、1月に社会福祉士を受験した職員1名が3月に合格した。

12. 後援会

役員会と定期総会が6月22日に、就労サポートセンターと食堂で開催され事業計画や予算等が原案どおり承認された。また、総会では、山形福祉工場従業員OBの本間忠彦氏に第2回松尾賞が贈られた。総会後は就労サポートセンター2階に会場を移し、懇親会が行なわれた。

13. その他

① アビリンピック参加

第34回全国障害者競技大会（アビリンピック全国大会）が、11月22日から24日まで千葉県で開催された。福祉工場からDTP部門に1名が出場し銀賞を受賞した。

9月6日に、山形テルサにて「アビリンピックやまがた2013」が開催された。コロニーからの出場者の成績は以下のとおりである。

（福祉工場出場者）

- ・ワープロ部門 1名
- ・DTP部門 3名（優秀賞1名）

（コロニーセンター出場者）

- ・事務補助 4名（技能賞（準優勝）1名）
- ・DTP部門 1名
- ・喫茶部門 3名

（就労サポートセンター出場者）

- ・ワープロ部門 6名
- ・喫茶サービス部門 2名
- ・ビルクリーニング部門 1名
- ・OA（オフィスアシスタント）部門 1名

② 社団法人ゼンコロ活動

当協会が加盟する社団法人ゼンコロに理事1名、運営委員会に2名の委員を派遣している。理事会・総会が3回（6月・11月・3月）開催され、ゼンコロ運営について各コロニーとの意見交換や課題の検討を行なった。

運営委員会は4回（5月・7月・11月・2月）開かれた。11月には就労継続支援事業A型研修会、1月には就労移行支援事業研修会②が開催され、それぞれ担当職員が参加した。